

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	平成 20年 4 月 25 日
調査実施の時間	開始10時 分 ~ 終了14 時30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム るーぴんのさとく(東串良) ( 鹿児島県 )
評価調査員の氏名	氏 名 <u>腰 高行</u>
	氏 名 <u>中村 朋美</u>
事業所側対応者	職 名 <u>ホーム長 管理者</u>
	氏 名 <u>福留 利郎 福留 まり子</u>
	ヒアリングを行った職員数 ( 4 )人

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家 族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 2008年4月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4677200117号
法人名	社会福祉法人 福寿会
事業所名	グループホーム るーびんのさと<東串良>
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町池之原2087番地1 (電話) 0994-63-0737

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6
訪問調査日	平成20年4月25日

## 【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤(兼務1)	9 人、非常勤 人、常勤換算8.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	造り		
	鉄骨	2階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	220 円	昼食	280 円
	夕食	280 円	おやつ	円
	または1日当たり			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 91 歳	最低	74 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂元内科クリニック	吉留歯科医院
---------	-----------	--------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、ルーピンの里という特別養護老人ホームを中心とする介護保険関連の事業所と併設されているホームである。大隈半島東南部、海岸近くの農家が点在する地区の中にある。地元では、全サービス提供事業所職員の服装が淡い明色で統一されているので、ルーピンと呼ばれて親しまれている。十分な広さをもつ利用者の生活の場と、多用途の事務所を中心としたバックヤードと明確に分離され、メリハリの利いたサービスの提供ができるホームである。このような背景の中で、余裕のある支援がされており、広々とした空間で利用者がゆったりとした生活を送っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の主な点として、地域とのつきあいが上げられたが、地域の人々が高齢化して、地域そのものの活動が低下している現状では、かつてのつきあいは変化してきている。ホームとしては、可能な限りホームから出向き交流を図ろうと努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義を伝え、1ヶ月前に職員に自己評価表を配布して記入のうえ、その自己評価を職員全員で協議してまとめた。気づいた課題については、処遇会議等で報告して改善の具体案を協議してケアにつなげるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議では、事業所からの運営内容及び活動内容報告とともに、各担当者からの利用状況、家族などを含む参加者から意見、要望等についての協議がされており、会議録も整備されている。評価の報告もされており、早急に改善できることについては、職員間で協議してケアに活かした取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族等の要望については、面会時に声かけて出してもらい、要望にそった支援をしている。不安や苦情については運営推進会議で家族に出席してもらい、発言できるようにしている。苦情受付ボックスとともに苦情が出てこないが、苦情がないという認識ではなく、あらゆる機会に苦情に対応する取り組みがされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の高齢化が進み、かつての交流は少なくなっているが、保育園や地域の行事、清掃作業などに積極的に参加するなどホームからの日常的な取り組みがされている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

主任調査員 腰 高行 / 調査員 中村 朋美

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が部署会議等で毎年、理念の見直しをして事業所独自の理念をつくりあげている。地域密着型サービスとしての役割としての考え方より家庭的な環境の下での個々のケアの役割が趣旨となっている。	○	次回の見直しにおいては、これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になっていることを期待します。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月報に毎回掲載し、掲示やミーティングで読み上げたりして、職員の周りに理念を置くことにより、職員間に理念の共有が図られるようになっている。個々のケアでは理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の高齢化が進み、かつての交流は少なくなっているが、保育園や地域の行事、清掃作業などに積極的に参加するなどホームからの日常的な取り組みがなされている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を伝え、自己評価を職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果については、処遇会議等で報告して改善の具体案を協議してケアにつなげるよう努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告とともに、家族などを含む参加者から意見、要望等を受ける会議となるように配慮されており、会議録も整備されている。評価の報告もされており、早急に改善できることについては、職員間で協議してケアに活かした取り組みをしている。		

グループホーム るーぴんのさと〈東串良〉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連携の濃い町内のことなのでホーム長が、町の担当者とよく行き来して、利用者や家族の相談にのってもらっている。町と警察と法人で「ひがしくしら助け合いネットワーク」を構成して、連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりはや職員の異動などの情報は、月報ほほえみで定期的に家族に報告されている。その際個人的な記入欄があり、健康面も知らせている。金銭は小額を利用者と家族が管理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の要望については、面会時に声かけして出してもらい、要望にそった支援をしている。不安や苦情については運営推進会議で家族に出席してもらい、発言できるようにしている。苦情受付ボックスとともに苦情が出てこないが、苦情がないという認識ではなく、あらゆる機会に苦情に対応する取り組みがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係をできるだけ続けるため、異動を最小限にすることを運営者に申し出るとともに、年2回の個人面談をしている。職員のストレスやケアについても相談にのっている。新人は夜勤ができる状態まで、利用者との関係など周りのスタッフで協力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する外部研修への参加、内部での勉強会は多い。その他消防の救急実技研修や調理の実習など職員を育てる取り組みもされている。ケアマネや介護福祉士の資格についても声かけをして働きながら学べる支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区協議会のセミナーに参加し情報の交換をしている。また、るーぴんのさと同士の勉強会は定期的実施しており、サービスの質の向上に活かしている。		

グループホーム るーぴんのさと<東串良>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	狭い地域のホームの特徴であるが、法人の他の在宅サービスからの利用者がほとんどで、同じ集落で顔見知りなど利用者同士がよく知っている。入所したら一時帰宅や家族の面会を増やすなど徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各入居者の個性を引き出し、暮らしの中に活かしている。入居者から伝承事や、不得手なことなどを教え学ぶ関係である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの利用者が意思表示が可能であるので、希望や意向を尊重できている。利用者が職員によっては伝えない場合があるので、他の職員がフォローしたり、処遇会議等で協議して周知するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に家族も出席して意見を聴取している。処遇会議で担当者の意見を聞きながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	細かい情報を処遇会議で得て、すべての利用者について、3か月ごとに点検を行いモニタリングしている。状態変化時に計画の見直しをしている。		

グループホーム るーぴんのさと<東串良>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活介護のほか、一時帰宅支援、墓参りや買い物外出支援、通院支援など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前のかかりつけ医を継続することとしているが、入所時に家族と話し合い、緊急時の搬送能力のある協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。毎週の受診と投薬を適切に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ほとんどの家族は、このホームにて終末を迎えたいとの思いが把握されている。しかし、身体状況の重度化及び医的ケアの重度化には、職員のスキルの問題などがあり、一定の方針をもっている。家族とは、必要な時期に適正に了解を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が特に意識していることである。言葉づかいや挨拶の仕方など処遇会議でホーム長が指導を徹底している。個人情報の管理についても職員は確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活は、本人のペースで自由に過ごしている。起床時間やテレビ視聴時間また面会など拘束することがないようにしている。		

グループホーム るーぴんのさと〈東串良〉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	車椅子の利用者が増えており、食事の準備や片付けなど職員と一緒にする利用者は減っているが、できる人は楽しんでやっており、献立やおやつも希望にそうようにしている。食事は、職員とともに楽しいひと時となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	遠くから給湯車で温泉を運んで利用者に提供している。毎日の入浴が可能である。温泉がある日は特に喜ばれて入浴を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は、洗濯物干し、たたみなど自分のこととして生活している。楽しみは、歌、カルタやテレビ視聴が多いが、気晴らしにドライブなどに出かけている。利用者に応じた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブは、ルーピンの花見、近くの海岸、利用者の家などに機会あるごとに支援している。日々となりの特別養護老人ホームや周辺によく出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な暮らしのケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、集落の消防団、特別養護老人ホームと定期的に防火・避難訓練をしている。災害に対する備蓄もされている。		

グループホーム るーぴんのさと〈東串良〉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待 したい項目	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量及び水分の確保についてはチェックされている。お茶や牛乳など利用者の習慣に応じた支援もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の明かりで、昼と夜は変えてある。異臭はなく昼時はご飯の香りがして家庭的である。花を飾り、午後に静かなひと時も配慮され居心地よく過ごせるようにしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドを持ち込んだり、仏壇やソファも置いてあり、利用者が自分の部屋としてくつろいでいる。		